

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 講師

氏名 小山雄一

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

担当科目の講義および実習において、シラバスに基づいた授業計画の立案・実施、評価の実施を行っている。講義では理解度確認を取り入れた授業運営を行い、実習では学生の理解状況に応じた指導を行っている。また、質問対応や学修支援、国家試験対策を通じて、学生の学修全般を支援している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
病理検査学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	2	88
病理検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	選択	4	90
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2	82
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3	104
組織学・同実習	臨床検査技術学科	必修	1	87
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	105
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	99
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	104
臨床検査総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	104
病理学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学生が知識や技能を習得し、自ら理解状況を確認しながら主体的に学修を進められる力を育成することを教育の理念のひとつとしている。そのため、講義では確認問題や小テストを通じて理解度を把握し、学修内容を段階的に定着させることを重視している。実習においては、個別フィードバックを通じて理解の深化を図っている。また、ICTを活用した資料配布や映像教材の提供により、授業外学修を含めた継続的な学びを支援している。これらの取組により、将来、専門職として自ら学び続けられる人材の育成を目標としている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教育の理念を実現するため、学生が自らの理解状況を把握し、主体的に学修を進められる教育を行うことを重視している。そのための基本的な考え方として、知識や技能を一方的に伝達するのではなく、学修過程の中で学生自身が確認・振り返りを行える仕組みを整えることが重要であると考えている。講義においては、内容の区切りごとに確認問題を取り入れ、理解状況を可視化しながら授業を進めている。また、授業後にはオンライン小テストを実施し、学生が自身の理解度を把握するとともに、教員側も学修上の課題を把握できるようにしている。さらに、授業冒頭で前回内容の復習を行うことで、知識の定着と授業間のつながりを意識させている。実習においては、操作手順の理解にとどまらず、結果を考察する力の育成を目的とし、標本のスケッチ確認や個別フィードバックを通じて理解の深化を図っている。学生がつまづきやすい工程については事前に整理し、円滑に実習が進行するよう準備するとともに、バーチャルスライドや映像を用いたデモンストレーションを活用し、実習室全

体で共通理解が得られるよう工夫している。また、ICTを活用した資料配布や講義録画の提供により、授業外学修を含めた継続的な学びを支援している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

組織標本作製実習においては、単なる手技の習得に留まらず、学生が標本作製の各工程における目的や結果を意識し、染色結果から条件や操作を振り返り、考察することを重視している。

(2) ICTの教育活用

有

オンラインツールを用いた小テストを実施し、学生の理解度を即時に把握するとともに、自己点検を促している。また、実習内容については映像教材を作成・活用し、授業前後の予習・復習や実習中の理解補助に役立てている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

授業においては、講義中にスライドの途中で小括として重要箇所の穴埋め問題を複数回実施し、学生が内容を確認しながら学習を進められるよう工夫している。また、授業冒頭では前回内容の復習を行い、各回の授業の繋がりを意識できるよう配慮している。実習においては、学生が理解しにくい工程や操作を事前に整理し、円滑に実習が進行するよう準備している。また、バーチャルスライドを用いた標本観察の解説や、ビデオ会議システムを応用した実習操作のデモンストレーションを導入し、実習室全体で理解が得られるよう努めている。

(2) 学生の理解度の把握

A

理解度の把握の取り組みとして、授業後にオンラインでの小テストを実施し、学生の理解度を把握している。また、実習においては、作製した標本のスケッチを学生ごとに毎回確認し、描写内容や表現から理解度を確認するとともに、必要に応じてコメントや追加説明を行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

授業および実習の資料を事前に配布（LMSにアップロード）し、事前学習ができるように環境を整えている。中間試験や定期試験前には、重要箇所の説明や復習等を行い自学実習が円滑に行えるようにしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義や実習後に質問があった場合はその都度対応を行っている。対面での質問対応の後、補足や参考文献の情報が必要と判断した場合は、それらについても学生に共有し、理解が深まるように配慮している。質問内容が全体に共有すべき事柄であった場合は、LMSを通じて履修者全体に情報共有を行っている。

(5) 双方向授業への工夫

B

双方向授業については、講義形式の特性上、学生同士の意見交換や発言を中心とした双方向的なやり取りは十分には行えていない。一方で、講義中に確認問題を取り入れるほか、授業後の小テストを通じて学生の理解状況を把握し、学修への参加を促す工夫を行っている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験対策への取組みとして、過去約10年分の国家試験問題の出題傾向を分析し、重要事項を整理した資料を作成した上で講義を行っている。また、模擬試験や定期試験等の結果から学生が誤答しやすいポイントを把握し、該当箇所については重点的に解説を行っている。学生が繰り返し学習できるよう、講義資料および講義の録画ファイルをLMSに掲示し、授業外学修の支援を行っている。さらに、前年度に国家試験を受験した学生を対象にアンケートを実施し、学習方法や試験対策の工夫、留意点等を集約して在学生に共有することで、学習意欲の向上と実践的な試験対策につなげている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートの結果を踏まえ、講義資料の内容や説明方法、実習の進行方法、試験前の対応等について、学生から肯定的な意見が得られた点については、翌年度以降の授業にも継続して活かしている。一方、TAの増員に関する要望については、人的配置等の調整が必要であるため、現時点では実施に至っていないが、今後の課題として検討している。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

アンケート結果に対する取組みの結果として、前年度の授業評価アンケートを踏まえて継続してきた取組みについて、今年度のアンケートにおいても学生から肯定的な評価が得られた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度もアンケート結果を踏まえた改善と継続を行い、履修者が学習しやすい環境を整える。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義中の確認問題や授業後小テスト、実習での個別フィードバックを通じて理解度を把握し、学修支援を行ってきた。その結果、学生の理解度向上が一部認められた。今後は、講義における双方向性の強化を図り、さらなる学修効果の向上を目指す。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

確認問題や小テスト、実習での個別フィードバックを通じて、学生の理解度向上が一部認められた。授業評価アンケートにおいても、講義内容の分かりやすさや実習の進行方法について肯定的な意見が得られており、取組の有効性が示唆されている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学内外のFD研修に継続的に参加し、授業設計や評価方法の改善に取り組んでいる。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学生の理解度をよりの確に把握するため、講義や実習における小テストや確認課題、個別フィードバックを充実させることを短期的な目標とする。長期的には、ICTを活用した教材整備や学内外の教育実践・FD研修から得た知見を取り入れ、主体的な学修を促す教育手法を継続的に改善し、教育の質向上を図っていききたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、授業評価アンケート結果